

# ふれあい さいせい



発行  
**済生会西条病院**  
 2008年夏号 第40号  
 西条市朔日市269-1  
 TEL(0897)55-5100



「南棟外来の七夕かざり」

先に見える医療政策を望む

院長 岡田 眞一

がん診療ガイドラインについて

副院長・外科部長 石井 博

PET-CTがん検診について

「がん専門薬剤師」を取得して

薬局長 浅川 隆重

委員会紹介 化学療法委員会

みかんの会について

4病棟部長 藤原 睦子

いしづち苑 七夕まつり

いしづち苑 通所主任代理 川崎 裕子

ニューフェイス

## 先に見える医療政策を望む

院長 岡田 眞一



院長

岡田 眞一

7月初め、昨年より19日も早く、四国地方の梅雨明けが発表されました。それから、すぐ真夏の暑さです。でも、じめじめした梅雨空より、抜けるような青い空に爽やかさを感じます。

この暑さも、地球温暖化の影響だと考えると不安になります。先日、地球温暖化現象について、洞爺湖サミットが行なわれました。2050年までに世界全体の温室効果ガスの排出量を少なくとも50%削減するという長期目標が、世界全体の目標として採択されました。この趣旨は、この地球とそこに住む人間を含めた動植物を守るためのものです。人を守るためなら医療も同じです。日本の医療も、もっと将来がよく見えて、しかも人にやさしい、長期的な目標があってもいいのではないのでしょうか。2年に一回の診療報酬改定も小手先だけで、長期的展望に立ったものではありません。医療費抑制を続ける政策は、過去の医療費亡国論がまだ意識されている証しです。先が見えない今、医療について、早く正当で長期的な医療政策目標が立てられる必要性を感じます。

さて、今年の4月から循環器科医師の退職で救急医療や日常の内科診療に支障を来していましたが、愛媛大学第3内科学講座の協力で、この7月から内科医師1人が増員となりました。これで少し楽になります。しかし、長期的にはまだまだ医師不足が、今後もしばらく続くと思われまます。

今年の病院のテーマは医療のIT化と病院創立50周年記念行事です。医療のIT化については、電子カルテとオーダーリングシステムの導入が順調に進んでいます。レセプト電算化システムの稼働に伴い、6月にDPC準備病院としての申請を行ないました。9月21日に行なわれる病院創立50周年記念行事についても、ポスターなどほぼ構想ができ準備が整いつつあります。

医師不足、看護師不足そして地域医療の崩壊という大きな波を受けていますが、何とか8月から7:1看護体制への移行も実現します。病院内のハード面でのレベルアップだけでなく、職員のスキルアップも行い、信頼される地域の中核病院を目指して頑張っていきたいと思ひます。少しずつではありますが、前進していると思ひます。これからも、どうか宜しくご支援の程をお願い申し上げます。

## がん診療ガイドラインについて

副院長・外科部長 石井 博

平成18年にがん対策基本法が制定され、がん治療に関する種々の整備がなされるようになりました。がん治療認定医制度およびがん薬物療法専門医制度のみならず、がん専門あるいは認定薬剤師、がん専門あるいは認定看護師制度も制定され、がん治療に関する診断、治療を専門的にチーム医療として可能となるように現在進められています。当院においても診断、手術、薬物療法(抗がん剤)、放射線療法、緩和療法まで同時に行える施設として各種認定医、専門医、専門薬剤師、認定看護師を養成および配備し、適切ながん治療を目指しがんセンターに準拠する状態ががんに対する診療を行っております。

それでは適切ながん治療とはどういうことなのでしょう？がんの進行度により種々の治療法があり、治療法が確立していないものもあります。約10年前までがん治療に関しては「各個の担当医師が経験した最も良い治療法」が行われていました。「全世界の医師が経験した最も良い治療法」を十分な検証(エビデンス)の後にまとめたものが「がん診療ガイドライン」(がん治療の道しるべ)です。現在、がんを診療する医師はこれらのガイドラインを考慮し、さらに最新の知識を加味して診断および治療を行います。

それでは皆さんが「がん診療ガイドライン」を見ることができるようでしょうか？全てではありませんがガイドラインの中には医師用と一般用が発刊されています(写真では乳癌、胃癌、大腸癌をお示ししています)ので、書店で購入いただければいつでもご覧になることができます。またインターネットでは日本癌治療学会等がホームページ内で医師用ではありますが公開されています(<http://jsco-cpg.jp/top.html>)。ご自分の病気に関して「ガイドライン」で十分にお知りいただき、ご疑問な点がありましたら担当医にお聞きいただければ幸いと存じます。がん治療に関しては日々進歩しており、私たち医師もガイドラインだけではなく常に新しい情報を入手し治療に役立てております。がんの治療法は未だに多くの方法があり、決して私たち医師だけで決定できるものではありません。是非皆さんのお考えをお知らせいただき、十分に相談した上で私たちとともに治療を進めてまいりましょう。

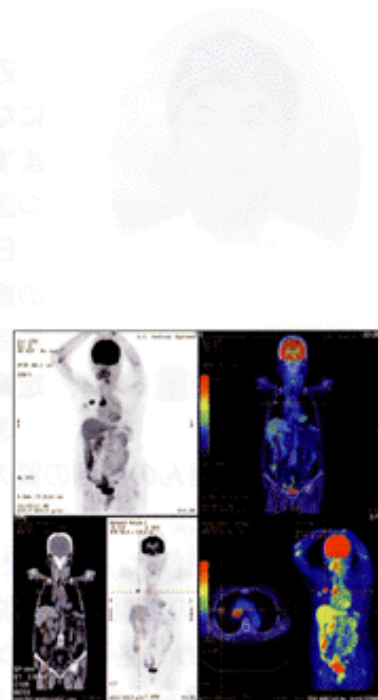


石井 博  
副院長・外科部長

外科専門医、  
がん治療認定医、  
がん薬物療法暫定指導医、  
がん治療認定医暫定教育医

## PET-CT がん検診について

昨年の4月から、新しく完成した南棟でPET-CT がん検診を実施しています。



### PET-CT (陽電子断層撮影装置)とは?

PET-CTのしくみは、放射性薬剤・FDGから放出された陽電子、さらにその陽電子から放出される放射線を検出器で検出して画像化するものです。腫瘍細胞は、一般に糖代謝が亢進していることが知られており、腫瘍細胞にブドウ糖の類似体であるFDGが通常の細胞の3～8倍蓄積するために、がんの部分が染まって見えます。

この装置はがんの早期発見に大変威力を発揮するため近年注目を浴びています。県内でのPET-CT装置の導入は、四国がんセンター、県立中央病院(松山)につづき3施設目になります。

### 検査の流れ

1. 検査の4～6時間前から絶食です。
2. FDGという薬剤を注射後、40～60分間、専用の待機室で安静にします。
3. 撮影を行います。PET-CT撮影は、全身(頭部～大腿上部)像を20～30分かけて撮影します。撮影終了後、30分ほど休んでいただき検査終了になります(場合によっては2回目の撮影をすることもあります)。
4. PET-CT がん検診の結果は、後日(約1～2週間後目安)、PET-CT検査以外の結果とあわせ、ご本人あてに送付いたします。

### コース 料金について

済生会西条病院ではPET-CTを活用した「がん検診」を実施しています。昨年度(平成19年)は103件、今年度は4月・5月・6月の3か月間ですでに33件の検診を実施しました。(平成20年7月1日現在)  
コースと料金は次のとおりです。

#### 【A シンプルコース】

PET-CT検査  
検査料金 85,000円 消費税込み

#### 【B スタンダードコース】

PET-CT検査+腫瘍マーカー検査  
検査料金 90,000円 消費税込み

各コースについて詳しくは、病院受付・検診センター受付で配布しているパンフレットか、ホームページ(<http://www.saiseikaisaijo.jp/pet-ct/>)をご覧ください。

### 申し込み方法について

PET-CTがん検診は完全予約制です。申込書を提出頂いてから、実施日時の調整を行います。

### 申込書の入手方法

申込書は病院受付・検診センター受付で配布しているパンフレットに折り込まれています。また、検診センターホームページ(<http://www.saiseikaisaijo.jp/kensin/>)からもダウンロードできます。



申込書に必要事項を記入後、下記のいずれかの方法でお申し込みください。

- ・検診センター受付での申し込み  
(月曜日～金曜日 8:30～17:00 第1・第3土曜日 8:30～12:30 まで \*祝祭日を除く)
- ・ファックスによる申し込み 0897(55)5241(検診センター直通)

お申し込みに関して、ご不明な点がございましたら、検診センターまでお問い合わせください。

電話0897(55)5100 内線250

# 『がん専門薬剤師』を取得して

薬局長 浅川 隆重



薬局長  
浅川 隆重

近年、抗がん剤の開発は目覚しく、新しい抗がん剤が次々と発売され使用されるようになってきました。それに伴い抗がん剤の誤った使用による医療事故も報告されています。そこで、患者さんに質の高い安全な医療を提供するために、高度な専門知識をもつ医師・看護師・薬剤師がチームでがん治療にあたる必要性ができました。

日本病院薬剤師会では、平成19年から専門薬剤師制度がスタートし『がん専門薬剤師』の資格認定もおこなうことになりました。この資格は、大学で3ヶ月研修して筆記試験を受験し合格後、論文2題、学会発表3回以上、症例50報告以上という要件の厳しい認定資格です。

現在、全国で116名(四国4名)のがん専門薬剤師が認定され、抗がん剤の特徴を理解した上で患者さんの生活の質の維持・向上と満足度アップの支援をさせていただいています。私もその一人として認定されました。

認定までの研修は、東京で2日間、愛媛大学附属病院で3ヶ月行いました。大学では、抗がん剤の調整や患者説明、チームで活動している委員会への参加などをおこない、夕方から各科医師の講義を中心に40講座聴講しました。論文も医師からの細かい指導をいただきました。また、他部署の協力・薬局職員の励まし、愛媛大学薬剤部の先生方の温かい指導などをいただくことで合格にいたったと、周囲の方々に深く感謝いたします。

今後、『がん専門薬剤師』として一人でも多くの患者さんの力になれるように努めてまいりたいと思います。



## 委員会 紹介

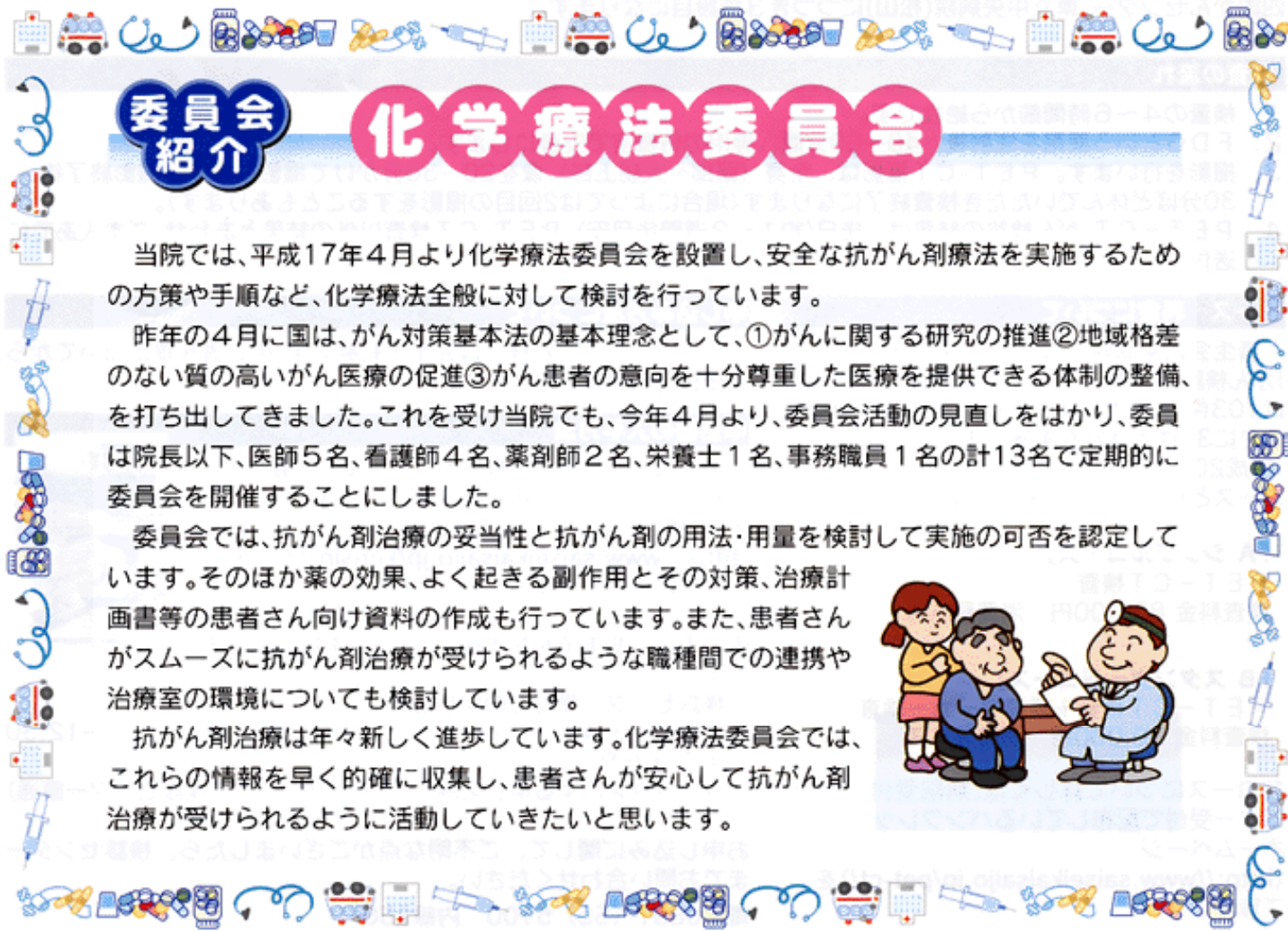
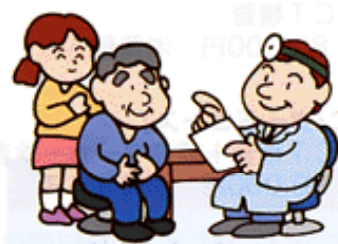
# 化学療法委員会

当院では、平成17年4月より化学療法委員会を設置し、安全な抗がん剤療法を実施するための方策や手順など、化学療法全般に対して検討を行っています。

昨年の4月に国は、がん対策基本法の基本理念として、①がんに関する研究の推進②地域格差のない質の高いがん医療の促進③がん患者の意向を十分尊重した医療を提供できる体制の整備、を打ち出してきました。これを受け当院でも、今年4月より、委員会活動の見直しをはかり、委員は院長以下、医師5名、看護師4名、薬剤師2名、栄養士1名、事務職員1名の計13名で定期的に委員会を開催することにしました。

委員会では、抗がん剤治療の妥当性と抗がん剤の用法・用量を検討して実施の可否を認定しています。そのほか薬の効果、よく起きる副作用とその対策、治療計画書等の患者さん向け資料の作成も行っています。また、患者さんがスムーズに抗がん剤治療が受けられるような職種間での連携や治療室の環境についても検討しています。

抗がん剤治療は年々新しく進歩しています。化学療法委員会では、これらの情報を早く的確に収集し、患者さんが安心して抗がん剤治療が受けられるように活動していきたいと思っています。





## みかんの会について

4病棟師長 藤原 睦子

みかんの会は正式名を愛媛県糖尿病療養指導看護師会「みかんの会」と称します。愛媛県の特産である蜜柑と、看護に完成はないと思いますが、少しでも自分たちの理想とする看護に近づけるよう、みんなで協力し合おうという意味合いで、未完とをかけて名づけられました。看護に特化した研修会ですが、エキスパートの育成ではなく糖尿病に関わる看護師のスキルアップと、東予地区の看護師間のネットワーク作りを目標に平成20年1月8日に発足しました。

南医師をアドバイザーに、糖尿病看護認定看護師の松田さんを中心として十全総合病院・住友別子病院・西条中央病院・そして当院から世話人を出して、第1回の研修会を3月22日に当院講堂にて開催いたしました。当院から10人を超えるスタッフの協力があり、岡田院長の挨拶で始まった研修会も無事閉会することができました。愛媛県立中央病院・糖尿病内分泌代謝の清水一紀先生と愛媛大学医学部看護学科教授の中村慶子先生のお二人から、今後の励みになるようなあつご講演をいただき、閉会後には「参加者みんなの顔が見える程度の人数も丁度いいし、東予地区の郷土・風土がわかっている人が集まるのがいいですね」という感想をいただきました。

現在は第2回目の研修会を10月に予定し、終業後に4病院の世話人が集まって意見交換をすることにしています。10月の研修会では、第1回目の「みかんの会」でのグループワークの内容を反映した研修会を予定しています。これまでは糖尿病の研修会で見かけることはあっても、直接話をする事もなかった他施設の方々と情報交換することができるようになり、確実に地域の連携がとれ始めていると感じています。みなさん、糖尿病看護に興味を持ってドンドン参加して下さるよう、お願いします。



## いしづち苑 七夕祭り

いしづち苑 通所  
主任代理 川崎 裕子

いしづち苑では、利用者の皆さんが、長年に亘り携わってこられた、日本古来の伝統行事に、出来るだけ多くふれあって頂きたいという願いのもとに、季節毎に各種の行事を開催させていただいています。

通所リハビリテーションでは、毎年、七夕の季節に利用者の皆さんに、願いを込めて短冊を書いてもらい、自筆の無理な利用者の方には、職員が願い事を聞いて代筆させていただきました。いろんな願い事がありましたが、やはり多かったのはご自分の健康のことでした。またなかには、「美味しいものが食べれますように…」など個性のあるものもあり様々でした。

それにもまして多く見られたのは、『家族の幸せ』『子供や孫の幸せ』を願う短冊でした。いつまでも親子なんですね。とてもあたたかなものを感じました。皆さんの願い事が叶いますように……と、きれいに飾りつけをしました。

短冊に 心をこめて 書く思い  
いしづち苑の 七夕まつり

